季　刊　　学　海

2023. 4　春号　岐阜県立岐阜高等学校・校誌編集委員会

目次

2022 年度

終業行事…… 1
年次の和…… 5
卒業式…… 5
終業式…… 9
離任式……13
卒業生と語る会Ⅱ……19
グローバルリーダー養成事業……20

◆■12 月 23 日（金）

■終業行事

自分を見失わないこと、自分を諦めないこと　　校長　石田　達也

1　はじめに

令和 4 年も 12 月下旬に差しかかり、あと 1 週間ほどで年の瀬を迎えようとしています。そして、今年度も約 9 か月が過ぎ、年度の約 3/4 が終わろうとしています。明日からの冬休みを前に、皆さんに少し話をします。

2　今年度後半を振り返って

まずは、毎回で申し訳ありませんが、コロナに関する話をします。

県内でも連日、コロナの新規感染者が 3,000 人を超えるという日が続いています。県立高校全体でも、今週は毎日 100 人を超える高校生が陽性になっています。多い日には 250 人を超える日もありました。

重症化リスクは低下しているようですが、それでも一旦、感染すると、39 度近い発熱や喉の痛みなどがあって、何日間かは体調を崩すことになりますし、登校や外出ができなくなります。明日からの冬休み中の感染症対策についても、各自の自覚と良識において、充分に注意してほしいと思います。

年末年始はどうしても人の往来が増える時期です。現在、感染拡大の兆候が続いている以上、引き続き対策を怠らず、多くの人と接する場所へ出かけることを自粛したり、自分ができ得る対策を講じたりする、という姿勢で、意識した行動をしてほしいと思います。

3　自分を見失わないこと、自分を諦めないこと

こうしたイレギュラーな環境の中ではありますが、君たちにお願いしたいことがあります。それは「周りの環境に翻弄されて、自分を見失わないこと」、もう少し厳しく言えば「周りの環境を言い訳にして、自分を諦めないこと」です。

もう 40 年も経ちますが、私にも高校生の頃がありました。私は高校時代、一時期、学習に身が入らず、毎日、何かに追われている気がして、焦ってしまって余裕がない時期がありました。その頃は、周りの人のことや周りの人の目ばかりが気になって、自分はどうしたいのか、どうすることが自分のためになるのか、分からなくなっていました。今から思えば、周りの人のせいにして、自分を卑下して、自分と向き合うことを避けて、自分のことをあまり大切にしていなかったと思います。

ちょうどその頃に、身内に大きな不幸があって、とても悲しかったですが、岐高の先生

から励ましの言葉をもらえたこともあり、また、その人の分まで自分を大切にして生きようと思い直すことができて、自分を冷静に評価して、良いところは良いと自分を認めよう、足りないところは何としてもどうにかしようと思うことができるようになりました。

君たちはこれまでもよく頑張ってきていますし、これからもまだ伸びていく力を持っています。その途中で、困ったり悩んだりしながら、人は成長していくものです。40 年も昔の私の話でしたが、この話が「自分を見失いそうな人」「自分を諦めそうになっている人」の心に、少しでも届いてほしいと思って話しました。

4　明日からの冬休みを前に

改めて明日から、年末年始も含めて 13 日間の冬休みとなります。三年次生の皆さんは、大学入学共通テストが 3 週間後に近づいてきました。この 3 週間でやれることは、まだたくさんあります。ここで焦らず、直前まで粘り強く、万全の準備をして望んでほしいと思います。また、少しでも早く、昼型の生活リズムに切り替えて、体調管理にも充分に気をつけてほしいと思います。

一・二年次生の皆さんは、1 年後、2 年後には現在の三年次生と同じ時期を迎えます。高い志を持ち続け、意欲を持って挑戦する姿勢を、今一度、自分の中に確認してほしいと思います。また、一日一日の学習の積み上げを大切にして、この冬休みは、ぜひ各教科の実力をしっかりと付ける期間にしてください。

5　おわりに

最後にもう一度。「自分を見失わないこと」「自分を諦めないこと」。自分と向き合って、自分を大切に考えて、充実した冬休みを過ごしてください。

新年 1 月 6 日には、みんなが元気に登校してくれることを待っています。

新たな道へ踏み出そう

進路指導部長　黒井　昌和

令和 4 年も昨年までに引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた 1 年ではありました。しかしながら、with コロナの考え方が社会に徐々に浸透してきました。岐阜高校でも、文化祭や体育大会が実施できたことなど、少しずつではありますが、コロナ前の状況が戻りつつある 1 年でもありました。今年もあと残りわずかとなりました。冬休みは短期間ですが、今までの高校生活を振り返り、来年はどんな 1 年にしたいか希望を持って新年を迎えてください。

一年次生は、3 年ぶりの林間学舎活動や、大変盛り上がった岐高祭を経験することができ、真の岐高生になれたのではないでしょうか。学習面でも、難易度の高いテストをいくつか経験し、それに備えて仲間と共に切磋琢磨してきたことと思います。今年を振り返り、できなかったことをどうすればできるようになるか、自分自身で必要なことを考えて実行してください。

二年次生は、この時期から半年が大変重要な時期です。1 月からは、いわゆる「3 年 0（ゼロ）学期」と呼ばれ、本格的な受験生となる準備期間です。今の学力を徹底的に分析し、受験までの長期計画を立てて実行してください。一方で、冬休みの短期計画も重要です。二年次生は、得意科目と苦手科目がはっきりと分かれている人が多いという特徴があります。ついつい得意科目の勉強に熱が入ってしまい、苦手科目をおろそかにしていませんか？　心当たりのある人は、この冬休み、苦手な科目のうち 1 科目で良いので、学校で出された課題に丁寧に取り組んでみましょう。

三年次生は、いよいよ入試本番を迎えます。共通テストを皮切りに、私立大、国公立大の前・中・後期と矢継ぎ早に行われていきます。体力とともに精神力も要求されますが、受験までの残りの日々を全力で取り組んでください。ここまで、苦労しながらもコロナに打ち勝ってきた皆さんならきっとできるはずです。

私たちも全力で応援します。

最後に、今年十月に亡くなられたアントニオ猪木さんが、1998 年のプロレス引退試合後のスピーチでよんだ有名な詩「道」を紹介します。

この道を行けばどうなるものか、危ぶむなかれ。危ぶめば道はなし。踏み出せばその一足が道となり、その一足が道となる。迷わず行けよ、行けば分かるさ。

この詩の出典は諸説あるそうですが、何らかの迷いが出た時に思い出してみると、きっと励ましの言葉になるでしょう。さあ、皆さんも新たな道に勇気を持って踏み出しましょう。

「岐阜県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」について

生徒指導部長　籠橋　美和子

クラス委員の一つに、生活委員がありますが、生活委員の皆さんは、生徒指導部や岐阜県警察署と共に、MS リーダーズ活動を行っています。MS リーダーズというのは、マナーズ・スピリット・リーダーズ、すなわち高校生の規範意識啓発活動推進委員のことで、県内各高校において交通安全のための活動や美化活動を行っています。

この MS リーダーズ活動の一環として、12 月 15 日に岐阜地区高校生による交通安全推進大会がオンラインで開催され、本校からは生活委員長ら 3 名が参加しました。では、この後生活委員から皆さんへのメッセージを伝えてもらいます。

□生活委員より

私たち生活委員は、MS リーダーズとして、普段、挨拶活動を行っています。登校時、校門や西野町交差点といった合計 3 か所で MS リーダーズの旗を持ち、生徒の皆さんに挨拶をしています。

また 11 月 8 日には、岐阜中警察署の職員の方と合同で、ヘルメット啓発活動を行いました。その時には、MS リーダーズだけでなく、生徒会の役員や、有志の生徒 19 人も加わって活動を行いました。

更に、私たち生活委員の代表は、12 月 15 日の午後、高校生による交通安全推進大会に参加し、岐阜地区の高校生と共に交通安全について話し合いを行い、岐阜地区の様々な高校の MS リーダーズの取り組みについて意見の交流をしました。

新たな条例が施行されたこともあり、岐阜高校では、ヘルメットの着用人数が少しずつ増えている傾向にあります。12 月に実施したアンケートでは、登下校など様々な場面でヘルメットを着用していると答えた生徒の人数は、一年次生 97 人、二年次生 31 人、三年次生 36 人となっています。

ヘルメットを着用していない人は、「ヘルメットなんてださいし」とか、「みんなつけていないのに恥ずかしい」といった理由で着用していない人が多いのではないでしょうか。

しかし、ヘルメットは重要です。もしヘルメットを着けなかった場合、事故を起こして頭を打つと大変なことになります。命を失う危険が増し、もし命が助かったとしても、発語ができなくなってしまう、日本語が聞こえなくなってしまうなど大きな影響があるそうです。

ヘルメットの重要性を理解し、まだ着用していない人も、いま一度検討しなおしてみてはどうでしょうか。

ここで、交通安全推進大会で行われた「交通安全宣言」の一部を皆さんにお伝えします。

交通事故を無くすことは私たち高校生すべての心からの願いであるとともに、とても大きく重要な課題です。私たちの周りでは交通事故が後を絶ちません。

交通事故は本来、起きてはならないものであって、私たちが交通安全について考え、行動することで交通事故を防止しなければなりません。

社会では、私たち高校生が交通マナーや基本的なルールを守っているかどう

かが注目されています。この条例を契機として、私たち高校生が主体となり、ヘルメット着用を啓発することは交通社会の中で実践的に安全で安心な社会づくりに貢献できるものであると思っています。

今大会のスローガン、「最強のシールド～守ろう命・被ろうヘルメット～」を岐阜地区の交通安全標語とし、MSリーダーズを中心に交通通安全活動に取り組みます。そして、地域の方々と協力して交通安全の輪を広げ交通事故のない社会を目指すことをここに誓います。

令和4年12月23日

岐阜高校生活委員　MS リーダーズ

最後に、我々はこれからもヘルメットの啓発活動や新しい政策を、生徒会と協力して行っていきたいと思います。これからも生活委員の活動への協力、よろしくお願いします。

□生徒指導部長より

今の生活委員の話にもありましたが、私の方から岐阜県条例に関して補足します。

令和4年10月1日施行の岐阜県条例は、「岐阜県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」といい、①自転車保険の加入義務化、②ヘルメットの着用の努力義務化　が定められました。

さて皆さんは、自転車保険に加入しているでしょうか？　12月に岐阜高校の全生徒に実施したアンケートでは、「加入していない」と答えた生徒が28名、「分からない」と答えた生徒が66名いましたが、実際はどうでしょうか。「全国高P連賠償責任補償制度」には、岐阜高校の生徒は全員加入しています。つまり、岐阜高校の生徒は全員保険に加入しており、岐阜県条例に反してはいないので、安心してください。ただし、この賠償責任補償制度で補償されるのは加害者になった場合だけで、自分が負った怪我などは補償されません。次に多くの生徒が加入していると思われる「TSマーク」について説明します。このTSマークは、自転車安全整備士が整備した時に加入するもので、自転車を購入した時や毎年の点検の際に加入できます。期限が1年間なので、注意してください。12月から、補償が充実し示談交渉サービスが付いた緑色のマークも追加され、緑、赤、青の三種類となりました。補償内容がそれぞれ異なっているので、加入している人は確認してみてください。その他、入学時に紹介したPTA推奨の任意保険に、入学時に加入している生徒も多いと思いますので、自分の加入状況を確認してみてください。事故後に相手とトラブルになることも多いので、さきほど少し触れました、「示談交渉サービス」が付いているものがおすすめです。

次に、ヘルメットの着用についてです。10月に調査した際は、ヘルメットを着用していると答えた生徒は88名で、自転車に乗っている生徒の10%という結果でした。その後、生活委員が啓発活動を行った成果もあったのでしょうか、12月のアンケートでは、各学年とも増加し、全体で164名に増えました。これはアンケート回答者の17%にあたります。岐阜県の自転車条例第13条は、「自転車利用者は、道路において自転車を利用する時は、乗車用ヘルメットを着用するよう努めなければならない。　2　保護者は、その保護する児童生徒等が道路において自転車を利用する時は、当該児童生徒等に乗車用ヘルメットを着用させるよう努めなければならない。」となっています。また、12月20日のニュースでは、警察庁が12月20日に、自転車に乗る際のヘルメット着用を努力義務とする改正道路交通法が来年4月に施行されると発表したそうです。警察庁によると、昨年までの5年間に起きた自転車事故の死者2145人のうち、頭部損傷が致命傷だった人は約58%の1237人で、胸の12%、首の8%などを大きく上回ったそうです。また、ヘルメット着用と非着用では、致

死率に3倍の差があります。特に、冬場は雪や凍結など路面の状況も悪く、早く暗くなり、事故が増える季節です。最近、私はヘルメットをかぶっていない人を見ると、頭が危険な気がして、心配になります。またヘルメットを被っている人を見ると、頭が守られていると感じて、ほっと安心します。ヘルメットらしいヘルメットの他、一見ただの帽子に見えるようなヘルメットも販売されております。たった数千円のヘルメットで命が守れるのですから、今ヘルメットを持っていない皆さんも、是非一度自転車店やホームセンターなどで被ってみて、気に入ったものを見つけて、購入し、命を守るためにもヘルメットを着用してください。

最後に、冬休みに向けて、皆さんへのメッセージです。お正月の遊びといえば、百人一首カルタですね。去年の百人一首クイズは難しすぎたようですので、今年は難易度を下げました。

空欄①②③④にそれぞれひらがな一文字を入れて、順番につなげて、メッセージを完成させてください。

一つ目の和歌

玉の緒よ　絶えなば絶え①ね　ながらへ②ば　忍ぶることの　弱りもぞする

二つ目の和歌

ほとと③ぎす　鳴きつる方を　ながむれ④ば　ただ有明の　月ぞ残れる

よって①②③④を並べると「ねばぎば」、つまり「Never Give Up!!」、そしてこれすなわち、校訓の「百折不撓」ですね。

新たな年を迎えるこの冬休み、皆さんが志を新たにし、諦めてくじけそうになる己に打ち勝ち、1月6日には、よりたくましくなった皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

◆■2月2日（木）

■年次の和（クイズ大会）

新・クイズ大会

生徒会長

クイズ大会はお楽しみいただけたでしょうか。生徒会の役員として2回目のクイズ大会ということもあり、昨年度の経験を活かしつつ、生徒の皆さんにどうしたら楽しんでいただけるかを第一に考えて準備に取り組みました。

新しく入ってきた役員のアイディアがすばらしく、生徒会役員6人で意見を出し合いながら楽しめるクイズ大会を目指しました。例年の形式からがらりと変えて、早押し方式にすることや、様々なジャンルの問題を用意すること、パワポのデザインをクイズ番組風にすることなどの工夫を凝らして、多くの生徒の皆さんに楽しんでもらえるようなクイズ大会にすることができたと思います。

新しい形に変えるにあたっていろいろなトラブルもありました。パワポの完成が期限ぎりぎりになったこと、パソコンの接続やアプリケーションの動作が正常にできるかが最後まで不透明だったこと、「右」の書き順を間違えて出題するなどパワポの表記に誤りがあったことなど、様々な改善点も見つかりました。新しいことに挑戦する難しさと楽しさを実感でき、自分自身にとっても良い経験になったと思います。

クイズ大会中の各クラスの様子を見たり、クイズ大会後に多くの生徒の皆さんから称賛をいただいたりすることができ嬉しかったです。クイズ大会を楽しんでいただきありがとうございました。

◆■3月1日（火）

■卒業式

357名が卒業証書を受領

式辞

校長　石田　達也

校舎に差し込む日差しにも、校庭に吹く風にも、暖かな春の訪れを感じる季節となりま

した。

今日のこの佳き日に、同窓会長遠藤宏治様、PTA 会長今井田直様、並びに PTA 本部役員の皆様方のご臨席を賜り、令和 4 年度岐阜県立岐阜高等学校卒業証書授与式を挙行できますことは、本校にとりまして、大きな喜びであります。高い所からではございますが、ご臨席いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。

また、保護者の皆様には、ご多用の中、ご列席をいただき、誠にありがとうございます。ただ今、三年次生　357 名に卒業証書を授与させていただきました。お子様のご卒業を、心よりお喜び申し上げます。

3 年前、本校に入学されましたお子様たちは、3 年間で立派に成長され、本日、卒業の日を迎えられました。保護者の皆様には、これまで本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、ご支援いただきましたことにつきまして、職員を代表いたしまして、深く感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、改めまして、卒業おめでとうございます、振り返ると、皆さんが本校に入学した令和 2 年 4 月は、全国すべての学校が一斉休校となり、皆さんの高校生活は、5 月末まで約 2 か月間の自宅待機から始まりました。

その頃は、高校に入学した実感がなかなか湧かず、自宅でオンライン授業を受ける日が続き、新しい仲間と話すこともできず、さぞ不安な日々を過ごしたことと思います。

登校ができるようになってからも、学校行事や部活動の大会が中止や延期となったこともあり、日々、感染対策に気を配り、不安を感じながら、我慢することも多い高校生活でした。

そのような状況にあっても、皆さんは、高い目標を持ち続け、懸命に学び、能力を高めました。友と対話し、切磋琢磨して、視野を広げ、人間性を高めました。

その努力と成し遂げた成果は、それが難しい状況であったからこそ、その価値は高く、すばらしいものです。3 年間、本当によく頑張ったと、皆さんに大きな称賛を送りたいと思います。

今日の卒業は、同時に、次のステージへと新たな一歩を踏み出すスタートでもあります。その門出にあたり、皆さんに、スピードスケート・金メダリストで、昨年、競技を引退された小平奈緒さんが講演会でお話しされた言葉を紹介します。

> 目標の先に目的があると人生が豊かになります。私の目標はオリンピックで金メダルを取ることでした。そして、私の目的は、私が私として誇り高く生きていくことです。この目的は競技を引退した今も変わりません。

卒業生の皆さん、「あなたがあなたとして、誇り高く生きていくこと」、皆さんには、このことをいつも心に留めていてほしいと思います。

皆さんはこの岐阜高校の卒業生です。本校の卒業生であることを誇りに、将来、進む方向を迷った時、苦境に立った時、ここが頑張り所という時には、本校での学習や部活動、そして、共に過ごした友人の姿を思い出し、それを自分の力に変えて、誇り高く生きてほしいと思います。

たとえ、学海の波が荒くとも、希望の岸が遠くとも、高い志を持ち続け、心雄々しく、果敢に困難に立ち向かい、それぞれが掲げる目標の達成に向けて、百折不撓　つとめて止まず　強い意志を持って、努力と挑戦を続けてほしいと、強く願います。

そして、将来、皆さんが、岐阜県、日本、あるいは世界を牽引するグローバルリーダーとして、様々な分野で活躍する若者へと、大きく成長していくことを大いに期待しています。

季節はやがて、本校のシンボルである桜の

開花の時期を迎えます。卒業という門出を機に、卒業生の皆さんの前途洋々たる未来に大きな幸あれと、心から祈念いたしまして、式辞といたします。

祝辞

PTA 会長　今井田　直

PTA 代表、また卒業生の保護者の一人として、一言お祝い申し上げます。

本日卒業式を迎えた三年次生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

この時期はまだ進路が決まらず、落ち着かない毎日を送っている人もいると思いますが、今日は卒業式です。皆さんの 3 年間の高校生活はコロナ禍でいろいろな制約のある中ではあったものの、嬉しかったことや、悩んだり落ち込んだりしたことなど様々な思い出があると思いますが、この日を最後に皆さんの岐阜高校での生活は終了です。存分にこの風景を目に焼き付けておいてください。そして、ここで出会ったかけがえのない仲間たちのことを忘れないでください。

保護者の皆さま、改めまして、お子様のご卒業おめでとうございます。

皆さまもきっと感じてこられたと思いますが、私も家内も高校生活を送る我が子が、少しずつ親の庇護から離れていく姿に、少し寂しさを感じつつも、成長を実感して頼もしさを感じると共に、周りの人たちの温かい見守りをいただいたことに感謝しております。

この 3 年間、岐阜高校の PTA 活動に様々なご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございました。石田校長先生はじめ、子供たちに関わっていただいたすべての教職員の皆さまのご指導なくして、生徒たちの成長はありませんでした。改めて深い感謝を込めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

卒業生の皆さん、皆さんは異例の学校生活を強いられたと思います。入学してすぐにオンライン授業、部活動や文化祭・修学旅行の様子が大きく変貌してしまったこともありました。思い描いていた高校生活とは違っていたかもしれません。ですが、そうした制限の中でも、高校生活でしか味わえない経験、友人たちと共に喜びや悲しみを分かち合う体験をできたと思います。そうしたものの積み重ねを経て、皆さんは岐阜高校を卒業します。

卒業後、皆さんは専門的な学問を修めるために大学へ進学して、親元を離れたり、自らお金を稼いだりして、学校以外の社会を実感する機会が増えて行きます。いずれ、学校がどれだけ小さなコミュニティであったのか理解する日が来ることでしょう。社会には、皆さんがまだ知らない知識や情報が無尽蔵に溢れています。18 歳が成人となった現在、責任と自覚、また正しいものの見方ができる力、すなわちリテラシーが求められます。そして皆さんは今以上に成長していきます。高校卒業はその通過点に過ぎないのです。

人は成長し、やがて自立へと向かいます。自立とは言い換えれば自由です。自分で道を選び、その道を進む方法を考え、そして仲間と共に歩む権利を得るのです。そしてそれは見方を変えると、道を選び、歩まなければならないという義務でもあります。自由を獲得したのか、負わされたのか、そう思うのはこれからの人生次第です。皆さんには是非、自由というものの、酸いも甘いも噛みしめてほしいものです。

そして 20 年後、30 年後、この学舎を巣立った仲間たちと様々なところで助けられたり励まされたりすることでしょう。岐阜高校を卒業しても、お互い切磋琢磨し合えるよう成長し続けることを期待しています。

改めまして、岐阜高校を巣立っていく皆さんに幸多かれとご祈念申し上げ私の祝辞とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

送辞

在校生総代

桜の蕾も膨らみ始め、春の訪れを感じられるようになりました。

今日の良き日に卒業を迎えられる先輩方に在校生一同、心からお祝い申し上げます。

先輩方がこの岐阜高校にご入学されてから3年の月日が経ちました。卒業式を迎えるにあたり、今、どのような「風景」を思い出されますか。

先輩方が入学された2020年は、新型コロナウイルス感染症が流行し始めた年です。本来ならば取り組むことのできた様々な活動が制限されてしまい、多くの「自由な学び」の機会が奪われた中での高校生活でした。

しかし、先輩方はそのような逆境の中でも、常に「制限のある中でできること」を考え、「活路」を見いだし、懸命にご自身の可能性を広げてこられました。

優勝を目指し、チーム一丸となって朝や昼休みに練習されていた「球技大会」。活動制限のある練習環境の中、工夫とチームワーク、集中力で高いパフォーマンスを発揮された「部活動」。「自治」の精神で、生徒のより快適な学校生活のために活動を継続された「委員会活動」。様々な場面で、率先して活動し、私たち後輩を導いてくださった先輩方の後ろ姿を忘れることはできません。

そんな先輩方のエネルギーを一番感じることができたのは、「岐高祭」です。

今年度の「岐高祭」は、3年ぶりに新型コロナウイルス感染症による活動の規制を最小限に抑えた形で開催することができました。文化祭・体育大会共に、先輩方が「最高の思い出を作ろう」と準備・発表に全力で取り組まれる姿や、困難な時には仲間と声をかけあって支え合う姿、意見がぶつかり合った時には熱い議論を交わして解決する姿など、様々な場面で先輩方の絆の強さを感じることができました。

先輩方の3年間の集大成とも言うべき、体育大会の「応援合戦」や各種目の取り組み、文化祭での「演劇発表」に、私たちは心が震えるほど感動しました。先輩方が私たちに身を持って伝えようとされたのは、「コロナ感染拡大」で途切れそうになった「岐阜高校」の「伝統」であり、「魂」に他なりませんでした。

卒業生の皆さん。今まで多くのことを教えてくださり本当にありがとうございます。私たち在校生は、しっかりと「襷」を受け継ぎました。どうぞ安心して前を向いて、進んでください。

私たちの生活は今も新型コロナウイルス感染症の影響を受けています。世界情勢も日々目まぐるしく変わり、喫緊の課題が山積する中で、楽観的な未来を予測することは難しい状況が続いています。しかし、岐阜高校で様々な経験をし、「グローバルリーダー」としての力を培われた先輩方なら、この激動の時代を乗り切って行かれると信じています。

先輩方の今後の一層のご活躍とご健康を祈念しまして、在校生を代表して私からの送辞といたします。

本日はご卒業、本当におめでとうございます。

答辞

卒業生総代

冬の厳しい寒さも和らぎ、桜の蕾に春の訪れを感じる季節になりました。

本日は、ご多用の中、私たちのために卒業式を開催してくださったこと、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

ちょうど3年前の今。新型コロナウイルス感染拡大を受けて、中学校が休校し、私たちは不安を抱えながら、鬱々と過ごしていました。晴れて高校入試を突破したもののクラスメイトと直接顔を合わせたのは6月。入学して、2か月が経った後でした。先行きの見えない高校生活への不安と、青春が過ぎ去っていることへの焦りを感じました。

しかし、過去の先輩方が過ごしたものと変わらない日常もありました。体育の前後には、

小テストに備えて、二宮金次郎のように単語帳を読みながら移動し、テスト前には友人らと問題を出し合いました。同じ教室で友人と共に学び、笑い合える当たり前の日常がやってきたことに安堵しました。

さらに、私たちは、新型コロナ感染予防の制約に耐えながらも、課外活動や、部活動、行事などに熱中し、大いに楽しみました。特に、三年次には最初で最後の本格的な岐高祭を経験しました。生徒会は文化委員長、体育委員長と共に、5 月から準備を始め、初の「で愛ドーム」での体育大会開催に向けて、競技内容から係の動線まで一から練り上げていきました。その際、何も分からない私は岐高祭成功に向けて共に模索を続ける仲間を心強く感じました。迎えた体育大会は、入学以来初めて、全校生徒が一堂に会する行事となりました。部活動パフォーマンスや応援団の迫力ある演舞、体育大会の競技に、全校がひとつになって感じたあの熱狂は今でも忘れられません。

文化祭準備では、受験勉強で忙しい中、一人一人が、自らの役割に責任を持ち、クラスで一つの劇を作り上げました。どのクラスもすばらしい劇を目指して脚本や舞台装置に、改良に改良を重ねていきました。しかし、校内の高揚する熱気とは裏腹に、コロナウイルス第七波が襲来しました。準備が思うように進まなかったクラスも、本番を前にキャストが抜けてしまったクラスもありました。それでも、皆さんの知恵と熱量を結集し、全クラスが成功を収めました。ここに、岐阜高校で獲得した百折不撓の精神を感じました。

在校生の皆さんに伝えたいことがあります。この先、受験や就職など、人生を決める大きな舞台では、相対的な価値基準によって評価されます。私はそのことを、大学受験を通して痛感しました。相対的基準に晒され、折れた時に再起する力をくれるのは、何物にも揺るがされることの無い、絶対的な自信です。それは、何かに打ち込むことで得られるものだと私は考えています。自分が熱中し、打ち込めるものを、この岐阜高校で見つけてください。

それから、尊敬し、信頼する友人たちへ。行事で同じ目標に向かって力を合わせ、他愛のないことで笑った日々が、かけがえのない思い出になりました。また、逆境にある時に、励まし、支えてくれたことは感謝してもしきれません。先生方には、授業や部活、行事、課外活動など数えきれないほど多くの場面でお世話になりました。心より感謝申し上げます。そして、18 年間育ててきてくれた家族へ。私たちの幸せを一番に願う存在でいてくれたこと、愛情を注いでくれたこと、本当にありがとうございました。新成人になったとはいえ、まだまだ未熟な私たちを、これからも見守ってください。

振り返れば、この三年間は日本史上、世界史上に残るであろう激動の時代でした。新型コロナウイルスに奪われた当たり前のはずの日常。今なお続く、ロシアのウクライナ侵攻という平和に対する脅威。円安による物価上昇や少子高齢化など、国内に山積する問題。「失われた世代」と呼ばれる私たちは今後もこの困難な時代に向き合い続けることになるでしょう。しかし、私たちは、困難を共に乗り越える友人の存在のありがたさや、失われたものを新たに創り上げる喜びをこの岐阜高校で学びました。そのような私たちなら、この時代に強く立ち向かっていけると確信しています。失われたものがあるのなら、百折不撓の精神を以て、新たに創り上げる。その決意をここに宣言し、答辞とさせていただきます。

◆■3 月 24 日（金）

■終業式

心のエンジンの着火点

校長　石田　達也

1　はじめに

いよいよ今年度も、今日を含めてあと８日となりました。今年度の自分の学校生活を振り返り、昨日までの自宅学習期間には、既に来年度へ向けて新たな取り組みを始めている人も多いことと思います。明日からの春休みを前に、皆さんに少し話をします。

2　卒業生の健闘について

まず、今年度の三年次生の大学入試の結果について、簡単にお話します。皆さんも既に知っていることと思いますが、今回で３度目の共通テストが実施されました。本校の三年次生も出題傾向を見定め、充分な対策を取って、昨年度以上の成果を挙げて、次の段階である国公立大学の個別試験に臨みました。その結果、学校全体の進学実績としては、先輩たちは、昨年度とほぼ同様の進学実績を挙げることができました。特に個別の二次試験については、思考力と記述力が問われます。表面的な理解ではなく、深く考え、本質を理解し、自分なりに論述する力については、短期間で養われるものではありません。まさしく日々の岐阜高校での授業を大切にして積み上げてきた成果が結果として表れたと思っています。

3　心のエンジンの着火点

先日、三菱みらい育成財団が主催する教育シンポジウムに参加しました。

実は､本校もこの財団から資金援助を頂いて、校内で実施しているグローバルリーダー養成事業で多くの講師の方を招聘することができています。このシンポジウムでのキーワードは「心のエンジン」でした。この会に参加された関東圏のある高校の校長先生が次のようなお話をされました。

> 生徒たちの「心のエンジン」が着火する場面は、生徒が「興味・関心」を持って、その後「行動・実践」に一歩踏み出すことができた時です。学校の役割は、そんな場面を生徒により多く提供することにあります。

これを受けて、別の参加者の方が次のように話されました。

> 心のエンジンについた火が、その後も燃え続けるためには「自分の行動や実践が自分で納得できること」、そしてもっと大切なことは、「その行動や実践が周りから認められること」。この「納得と承認」がさらに心のエンジンを強く駆動させます。

4　皆さんに取り組んでほしいこと

私はこのお二人のお話を聞いて、非常に共感しました。このことを受けて、皆さんに取り組んでほしいことをお話します。

今日からの自宅学習においては、正しい結果を出すことのみに捉われず、その理由や因果関係に興味を持って、じっくりと考えることが大切です。また、来年度は、本校で行っている多くの講演会にもっと積極的に参加して、自分の興味・関心のきっかけ作りに活用してほしいと思います｡授業以外の探究活動、模擬国連、科学の甲子園、大学主催の研究会への自主参加など、様々な活動に積極的に参加することで､行動や実践に一歩踏み出して、広い視野やバランスの良い思考を獲得してほしいです。さらには、周りの友人のすばらしさを互いにしっかりと認め合ってほしいと思います。岐阜高校には、より高いレベルで切磋琢磨できる環境があります。それが本校の強みです｡狭い意味での勉強だけに捉われず、目の前の成績だけに捉われずに、自分を向上させることができるすばらしい仲間と環境で、顔を上げて、視野を広く持ち、高い山を目指して、自分の力を高めてほしいです。自分の「心のエンジン」に火をつけて、それを強く駆動し続けるために、「興味・関心」「行動・実践」「納得・承認」の上昇スパイラルを作り上げてください。

5　明日からの春休みを前に

明日からは、年度をまたいで、春休みの期

間となります。間もなく、岐阜高校のシンボルである桜の季節になります。心機一転、新しいスタートを切るには。絶好の季節です。ここでもう一段、ギアを上げましょう。

一年次生の皆さんは、卒業生や二年次生に続いて、挑戦する新二年次生の姿をたくさん見せてください。

二年次生の皆さんは、高い山を登るために、現在の自分の位置を知ること、そして、登るための手段と計画をできるだけ早く練りましょう。皆さんは既に受験生です。高い山に立ち向かう覚悟を固めて、動き始めてください。

ぜひ、充実した春休みを過ごしてください。4 月 10 日には、みんなが元気に登校してくれることを待っています。

次の年次に向けて

進路指導部長　黒井　昌和

3 月 1 日に卒業式が終わり、三年次生の先輩方が卒業しました。そして今日、一・二年次生は 1 年が終わり、4 月からは次の年次へ進むことになります。今年も卒業された先輩方は、東京大学をはじめ大変すばらしい進学実績を残されました。皆さんも先輩方に続いて、すばらしい成果を挙げてくれることを期待しています。

さて、皆さんは、この 1 年間を振り返ってみていかがでしょうか。全体的に見れば、3 年ぶりに新型コロナウイルスの影響による休校期間がなく、多くの行事を実施できた 1 年でした。今月の自宅学習期間にも、様々な活躍を見せてくれました。例えば、奄美・屋久島自然科学探究研修では、参加した生徒 23 人全員が険しい登山を経て縄文杉を見るなど、本州とは異なる豊かな自然環境の中で多様な生物の生態に触れることができました。名古屋大学で行われた WWL 生徒研究成果発表会では 11 人の生徒が探究活動等の発表を行い、多くの賞を受賞しました。科学の甲子園全国大会は、2 年ぶりに現地開催され、総合 9 位に入賞しました。どの活動も大変すばらしいものであったと思います。来年度も、皆さんが様々な活躍を見せてくれることを心から期待しています。

さて、二年次生の皆さんは、3 月 10 日の登校日に全統共通テスト模試の自己採点をもとに春休みの学習方法について考えましたね。あれから 2 週間経ちましたが、考えた通りに実行できているでしょうか。4 月 11 日の課題テストまであと 18 日あります。もう一度計画を見直し、自ら設定した課題の克服に取り組んでください。三年次生となってからの 1 年間では、自分で考えて学習することが成績を伸ばす最も重要な要素となります。この春休みはその第 1 歩ですので、自分に厳しく学習に取り組みましょう。

一年生の皆さんは、3 月 10 日の探究活動の発表を見て、どんなことを感じたでしょうか。二年次生の先輩方のすばらしい発表に感心したという人も多いでしょう。皆さんも、「新型コロナウイルスを考える」を共通テーマとして探究活動を実施しましたが、来年度は各自でテーマを設定して実施します。探究活動に積極的に取り組んでほしいと願っています。先輩のなかには、その成果を校外で発表し、学校推薦型選抜の資料として提出して合格を勝ち取った人もいますよ。一方、学習面ではどんな 1 年間だったでしょうか。一年次では、英数国の 3 教科を中心に取り組んできました。毎日のようにある小テストにも熱心に取り組んできましたね。ある卒業生は、「一年次のころ小テストは大変苦痛だった。しかし今振り返ると、あのおかげで日々こつこつと学習に取り組む習慣がついた。」と言っていました。二年次からは、地歴・理科の科目で入試に直結する科目が増えてきます。皆さんからは、共通テストに「情報」もあります。今までとは少し学習時間のバランスを変えなければならないでしょう。その前にこの春休みは、英数国の 3 教科にじっくりと取り組むことができる貴重な時間です。出された課題に取り組

むことはもちろん、発展的な問題や苦手な分野の克服に取り組んでみましょう。

情報モラルについて

生徒指導部長　籠橋　美和子

今日は、SNS のトラブルについて話します。パワーポイントを作成しました。どうぞ見てください。

［PP 開始］

（１）

ナレーション：高校１年生の「ひろし」は、高校入学後にスマホを買って貰い、動画や SNS に夢中です。

ひろし：ん？　たけしからメールだ。

たけし：あのさ、相談がある。

ひろし：何？

たけし：同じクラスのアスカのこと気になるんだけど。なんて話かけたら良いか、分かんなくって。

ひろし：なんだよ。そんなことか、俺にまかせろ！

たけし：このことは、誰にも知られたくないから。

ひろし：分かったよ。

ひろし：なんだよ。たけしのやつ。アスカのこと好きなのか。親友として是非協力してやらなきゃ。

（２）

ひろし：アスカさん、好きなタイプとかってある？

アスカ：やだなー、ひろしくん唐突に。

ゆみ：もしかして…ひろし、アスカのこと好きなの？

ひろし：ち、違う！　僕じゃない！　えーと…

ごう：あれ～？　誰かに頼まれたの？　誰だよ、そいつ。

ひろし：誰もいないよ！

（３）

ひろし：あいつら、マジ焦った…たけしのこと、バレないようにしなきゃ。あ、そうだ！匿名の質問箱をつくって…えっと…「アスカさんのこと知ってることがあったら教えて」と書いて載せておいたら、たくさん情報が集まるかな？

（４）

ひろし：お！　早速来た来た！　匿名だからか、みんなどんどん送ってくれるぜ。

ごう役の人：中学の時、A 君と 1 年間つきあってて、A 君は B 高校へ行ったよ。

ひろし：そうなんだ！

ゆみ役の人：イチゴが好きって言ってた。なんでそんな質問してるの？　アスカのこと好きなの？

ひろし：俺じゃないよ、ちょっと知り合いがね…

ゆみ役の人：アスカの家知ってるよ。地図送っといた。

ひろし：さんきゅ

ごう役の人：夕方 5 時からは駅前の塾に行ってるよ。

ひろし：そうなんだ！

ごう役の人：彼女、インスタやってるよ。ID 送っとく。休日のかわいい写真のせてるぜ～

ひろし：マジ！　さんきゅ

ひろし：うひょ～！　マジ助かる～！！みんなサンキュー！

（５）

ひろし：よし！　アスカさんについていろいろ分かったし、たけしにメールしとくか。

ひろし：アスカさんのこと、いろいろ分かったぞ。

たけし：え？　何？

ひろし：まずは、好きな食べ物はイチゴ。スポーツはバレーボール。でも、小学生の頃は、水泳やダンスも習ってたんだって。

ひろし：あと中学の彼氏が B 高校にいて、1 年間つきあってたらしいぜ。今の時間は駅前の塾に行ってるって。インスタも聞いたぞ。そこには休日の写真も載ってた。そうだ！

彼女の家の地図やインスタ、後で送っておくよ。

たけし：ありがとう。

ひろし：がんばれよ。

ひろし：俺ってなんて友達思いなんだろう。たけしには、幸せになってほしいんだよな～。

（６）

ナレーター：親友「たけし」のために、ひろしは行動したよ。みんなは、この行動をどう感じた？　隣の人と話し合いましょう。１分間時間を取ります。

（７）

ナレーター：では、その後の結末がどうなったかというと…

・教室にいたクラスメイトが、質問箱にきた匿名のメールのやりとりを見て、アスカを好きなのは「たけし」だとみんなにばらしてしまいました。

・メールをスクショしていた者もいて、アスカの自宅の地図が他校や外部へ出回ってしまいました。

・アスカの知らないところで個人情報が公開され、拡散されてしまいました。中には、事実でないことや、アスカが傷つく内容も書き込まれました。

（８）

アスカ役の人：君が個人情報を漏らしたんだよ。漏れた情報は消してももう世界中に広がってるよ。これは、犯罪だよ！　もっと違う方法があったはずだよ！

ひろし:え､犯罪？！　スマホを触ってる時、あんまり考えずにタップしてたよ。自分がされたらどう感じるか…いつも心にとどめておかなきゃいけなかったんだ。本当に、ごめんなさい

［PP 終了］

いかがでしたでしょうか？

SNS の利用に関しては、現在、迷惑行為や犯罪行為の動画の掲載や、他者への誹謗中傷が社会問題となっています。

また、皆さんに対して再三注意しているにもかかわらず、今年度も何件か情報モラル違反があり、指導を行っています。もし、プロフィールや書き込みに、クラスや部活、名前の一部を載せたり、個人情報にかかわる画像を載せている人がいましたら、今日、すぐに削除してください。

先ほどの「ひろし」の言葉にも､「自分がされたらどう感じるか、いつも心にとどめておかなきゃいけない」という言葉がありました。

SNS 上でも、対面でも、軽率に相手をいじったり、うわさ話を広めたり、その場では一見大したことがないように見えても、後々炎上しかねないような、不快で迷惑な言動を、決して行わないでください｡そして､どうか、他者のプライバシーや尊厳を尊重し、不用意な発言をせず、黙っているべき時は黙っていられる、思慮深い大人になってください。

◆■3 月 24 日（金）

■離任式

□ご退職･ご転任の先生（本校での勤務年数）

国　語	生駒　麻美子	（4 年）退職
教　頭	森　敦士	（2 年）退職
国　語	籠橋　美和子	(12 年) 岐阜総合高校教頭
地歴公民	三浦　寛之	（9 年）大垣東高校
地歴公民	加藤　紫帆	（2 年）可児高校
数　学	栗田　和輝	（10 年）教育総務課
数　学	大野　隼人	（5 年）羽島高校
保健体育	浅野　和道	（2 年）大垣北高校
保健体育	山北　俊輔	（2 年）山形高校
英　語	大野　麻美	（5 年）研修
情　報	末岡　良明	（5 年）岐阜北高校
A　L　T	Vincent King	（1 年）退職
事　部	桐山　聖和	（4 年）華陽ﾌﾛﾝﾃｨｱ高校

何のために学ぶのか

国語科　生駒　麻美子

皆さんは何のために勉強しているのでしょ

うか。岐阜高校といういわゆる進学校に来ているのだから、当然大学に進学して自分が将来やりたいことを実現するためですよね。特に三年次生ともなると、がんばって勉強して合格を勝ち取り自分の夢を叶えようという人がほとんどです。そういう目標に向かって努力して大学合格を勝ち取っていくのはすばらしいと思います。

ただ、受験に必死になるあまり、この教科は受験科目にはないから勉強したくないとか考える人も出てきます。その気持ちは分からなくもないけれど、私はそういう考え方は残念だしもったいないなあと思うのです。自分自身のことを言うと、私は高校時代理数科にいたので、理科は物理・化学・生物・地学全部、数学も数Ⅲまで履修しました。社会も日本史以外はすべて履修しましたが、無駄だと思わなかったし、この年になると逆にいろいろ学べて良かったと思うのです。学んだことすべてが自分の血や肉になっているような気がします。旅行が趣味なのであちこちに出かけますが、海外に行った時でも世界史や地理を学んだおかげで様々な事物を見て深く捉えることができるし、なにより楽しくて豊かな気持ちになれます。どんなことでも知らないよりは知っている方が豊かな人生が送れると思うのです。二年次生の人は現代文の授業で「『であること』と『すること』」という文章を習ったと思いますが、その中で「学問」とか「教養」は「『である』価値」だと述べられていました。その人の個体性にかかわるものだとありましたが、私自身、様々な学びを通して今の自分があると思うのです。これからも皆さんが様々な学びや経験を通して成長して、その人生が豊かなものになることを願っています。

最後にこのすばらしい環境で仕事ができたこと、優秀な生徒やハイレベルな先生方と同じ時間を共有できたことは私にとっても一つの財産になったと思っています。どうもありがとうございました。

（追伸）家が美濃加茂なので岐阜から離れていますが、FC 岐阜のサポーターでシーズン中は長良川競技場に通っているので、もし見かけたら声かけてください（笑）。

悔いなし

教頭　森　敦士

コロナと 3 年間向き合ってきました。このようなオンラインも今日で終わると良いです。私は 3 月で定年退職を迎えますが、4 月から引き続き教師を続けます。

私は、高校二年生の時、教師の道を選択しました。そして 38 年間その道を歩んできました。

今の気持ちは、あるマンガの登場人物の言葉を借りるなら、我が教師人生に一片の悔いなしというところです。

一・二年次生の皆さん、皆さんにも卒業生と同じ言葉を贈ります。

自ら選択した道をしっかり歩んでください。悔いのない人生を歩んでください。

It's My Life

国語科　籠橋　美和子

これまで私は、皆さんにいろいろ話してきましたが、皆さんと過ごした思い出を振り返ると、涙が止まらなくなりそうですので、授業の雑談と同じように、自分のことを話したいと思います。

私は、雪深い、高山市のはずれで生まれました。

父は、私が中学一年生になった 7 月のある夜、突然亡くなりました。心筋梗塞という病気でしたが、それまで一切予兆はありませんでした。その後、私の生活は一変しました。家にいた母が働きに出はじめ、私は食事の準備や洗濯といった家事を担うようになりました。

部活は剣道部に入っていました。部活の後、学校帰りにスーパーマーケットに寄って買い物をして帰り、洗濯機を回しながらごはんを

作るという毎日でした。

田舎の男尊女卑的な価値観のためか、母は、女である私が勉強し、大学を目指すことを快く思っていませんでした。「女が大学に行ってもお金がかかるだけで、何の役にも立たない」「勉強する時間があるなら、もっと家のことをしろ」というのです。

高校は斐太高校という進学校に通いました。学校では勉強しろと言われ、家では勉強すると怒られます。次第に私は精神的に追い詰められていき、高校三年の時には、教育相談室に入り浸っていました。

当時の高校でも、夏休みの課題として読書感想文がありました。本が好きだった私は、小学六年生の時と、中学三年生の時に、読書感想文などで県知事賞をもらっていましたが、高校三年の私は、それまで以上に必死に、今自分が読むべき本を探しました。そして、その時出会ったのが、「エミール」という、フランスの思想家ルソーが書いた 3 冊の本でした。私は、三日三晩閉じこもって、泣きながらこの本を読み、泣きながら原稿用紙にその時の自分の思いのすべてをぶつけました。その後、私の感想文は、県知事賞をもらい、東海でも選出され、最終的に全国で賞をいただきました。

高校三年生のその年、ちょうど斐太高校は 100 周年を迎えており、その記念誌に私の書いた感想文が載っています。冒頭には、先生や大人への不信感や「自分は操り人形にすぎないのではないか」といった悩みを吐露しています。ですが、この本を通じて、私は「自由」を目指し「独立した自己を確立」するといった、将来の指針を見いだしました。それは、ある種の、親からの精神的な自立でもありました。私は親に期待するのではなく、自分で自立し、自由になろうと決意したのです。私は「お金は自分でアルバイトして生活するから、お金で迷惑はかけないから」と親を説き伏せ、奨学金とアルバイトで大学に進学しました。

大学では、より自由になりたい、広い世界を見たい、しかもお金のできるだけかからない方法で、と考え、サイクリングクラブに入部しました。たくさんの荷物やテントを自転車に乗せ、峠を超え、雨の日も、雪の日も、ある時は仲間と、ある時は一人で、全国を旅しました。公園や無人駅など、水とトイレさえあれば、テントを張って寝る、といった旅でした。

部活の他はアルバイトばかりしていた大学生活でしたが、高校の国語の教員を目指しての勉強は、一生懸命取り組みました。高校時代に使用していた古文単語帳を引っ張りだし、高校時代にできなかった勉強を取り戻すような思いでした。

母校で教育実習中に研究授業をした時、生徒は「分かりやすかった」と言ってくれたのですが、後ろで見ていた国語の先生が寝ていて「安心してよく寝れる授業だった」との講評をいただきました。それが悔しくて、私は大泣きに泣きました。私が本当にしたいのはこんな授業じゃない。以来今に至るまで、私の授業の最大の目標は「眠くならない授業」です。

しかし、新任のころの授業はひどいもので、生徒が立ち歩いたり、ものを投げ合ったりしていたこともありました。また、私の声や話し方が聞き取りにくい、と生徒から文句を言われました。

これではいけない、と思った私は、少し余裕ができたころ、NHK の「話し方講座」という通信教育を受講しました。発音アクセント辞典を利用して正しい発音やアクセントを学び、カセットテープに自分の音読を録音して送り、NHK のアナウンサーが、同じくテープに声を吹き込んで添削指導をしてくれるというものでした。今の自分にとっても本当にためになる講座でした。

前の前に赴任した学校で、私は書道部の顧

問となりました。書道は、国語とも関連が深く、一生取り組めると思い、学びはじめました。その後、目標だった書道の教員免許や師範資格を取得しました。岐阜高校では、自分が三年の学年主任をしていた時には、センター試験応援用の旗を、自分で書いて作りました。

岐阜高校では、写真部の顧問となり、それを機に写真の勉強もはじめました。岐阜高校140 周年の年には、理科棟のレンガ、木製のトイレのタンク、各教室のヤカンといった旧校舎の遺物も展示され、生徒と共に数多くの記録写真を撮りました。

岐阜高校に来てからもう一つ挑戦したのは、スキューバダイビングです。ダイビングをするには、C カードという資格を取得する必要があるのですが、50 代になると医師の診断書が必要とのことだったので、40 代のうちにカードを取っておこうと思い、本格的にダイビングを始めました。

初海外ダイビングは、チューク、昔トラック諸島と呼ばれていた島です。この島の周辺には第二次世界大戦時の日本の戦艦や戦闘機、タンカー、貨物船などが大量に海底に沈んでいており、多くの人に是非知ってもらいたい場所でもあります。

何のために学ぶのか、その目的は皆、人それぞれだと思います。私にとって何かを学ぶことは、自分の世界や視野を広げてくれるものでした。自由を得るための手段であると同時に、学ぶことそれ自体が楽しく、人生に意味をもたらすものでした。

この 12 年間、皆さんのおかげで、本当に充実した楽しい日々でした。心から感謝しています。岐阜高校を去り、もう皆さんと楽しく授業でお話できなくなるのは本当に悲しいです。が、次の学校でも、新たな出会いと学びを大切にしたいと思っています。

どうか皆さんも、学校の勉強にとどまらず、自分ならではの世界を広げていってください。皆さんが充実した人生を過ごしてされることを心から祈っております。これまで、本当にありがとうございました。

感謝

地歴公民科　三浦　寛之

在校生、卒業生の皆さん

授業、部活動と本当に楽しくかかわることができました。岐阜高校を離れる僕からの最後のお願いがあるとすれば、皆さんには岐高生としてのプライドを持ってこれからも生活をしていってほしいと思います。プライドを持つということはどういうことかというと、勉強だけでなく、部活動や自分の好きなことにとにかく全力で取り組むということです。せっかく岐阜高校に入学したのだから、日々の授業を何となくこなすだけでなく、自分の好きなこと、興味のあることに積極的に取り組んでください。そして、それを全力で取り組んでください。何も勉強の点数だけが自分や他人を測るモノサシではありません。自分の中にいろいろなモノサシを持ち、いろいろな測り方のできる人になってください。4 月からは別の学校から皆さんを見ることになりますが、次の学校の生徒に「岐高生かっこ良いな。岐高生以上にかっこ良い取り組みをしよう。」と言える皆さんであってください。

9 年間、ありがとうございました。

職員の皆さん

9 年間お世話になりました。生徒に文武両道を求める以上、自分も授業や課外活動を積極的に、と思い過ごしてきましたが、ご迷惑をおかけすることも多かったかと思います。その中でも、岐阜高校で充実した 9 年間を過ごすことができたのは、旅行に行ったり、お酒を飲んで馬鹿話で盛り上がったり、時には、職員室や進路指導室、体育館で学校や生徒、授業、部活動のことを真面目に話したりという皆さんとの出会いがあったからだと思っています。

ありがとうございました。

女子バスケットボール部の皆さん

みんなの、部活にも勉強にも手を抜かず全力で取り組む姿は、岐阜高校に来て「こんな生徒が育てば良いな」と思っていた姿そのものです。いろいろな学校の先生からみんなのバスケットに対する取り組み方を褒められ、バスケットボールという競技の中でどこの学校よりも本当の意味での文武両道を体現してくれていると思っています。本当に尊敬しています。せめて二年生はあと２か月、隣でみんなの取り組みを応援していたかったのですが、こればかりはどうしようもありません。あと１週間、お互い良い関わりをしていきましょう。

青いバラの花言葉

地歴公民科　加藤　紫帆

皆さんは、青いバラを見たことがありますか？　青いバラの花言葉は何だと思いますか？

もともとバラの色には赤色と白色しかなくて、青色の色素はなく、青いバラは「不可能」の象徴だとされていました。しかし、赤・青・白の３色からなる国旗を持つイギリスに恩返しするため、青いバラを開発しようとした企業が生まれました。それから数十年後、青色のバラを咲かせることに成功したそうです。

このことから、青いバラの花言葉は「夢は叶う」だとされるようになりました。

私自身の「教員になる」という夢が叶うのには時間がかかってしまったけれど、なんとかたどりつくことができました。この青色のバラが実現したように、皆さんもいつか自分の夢が叶うと信じて、悩んだり踏みとどまったりしながらも前に進んでいってください。

授業やHR、部活動で出会ったみんな、お別れは少し寂しいですが、私も新しい環境で頑張ります。

先生方、職員の皆様、2年間、未熟な私を育ててくださって、本当にありがとうございました。

健康で元気に生きて

数学科　栗田　和輝

数学科の栗田です。10年間お世話になりました。

岐阜高校での 10 年間には生徒の皆さんと一緒に過ごした思い出がいっぱいです。数学の授業、文化祭、そして音楽部、数え上げればきりがありません。本当に楽しかったです。

先生方には、大変お世話になりました。経験豊富な先生も、若い先生も、皆さん教育熱心で、フットワークの軽い、すばらしい先生ばかりでした。職員室での何気ない日常もとても幸せでした。感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

この場で皆さんに伝えたいことは、健康で元気に生きていってほしい、それだけです。今の皆さんがここまで成長できたこと、健康で毎日過ごせることはとても尊く、本当に幸せなことなんです。

僕の生活は、この10年で大きく変化しました。妻と出会い、結婚し、娘が生まれ、その娘も３歳になりました。予定日より１か月半早く生まれたため、生まれた時の体重は2000グラムしかありませんでした。１か月間NICU(新生児集中治療室)で過ごすなど心配もありましたが、その後は大きな病気もなく、元気に成長しています。妻とよく、本当に奇跡だよね、幸せだよね、と話をしています。

一方で、僕自身、この10年の間に２回体調を崩して入院しました。健康の有難さを身に染みて感じましたし、多くの方に支えていただいていることに改めて気づかされました。

この先、時には悩むことも挫折することもあるかもしれませんが、そんな時は周りに頼って、支えてもらいましょう。くれぐれも病気や怪我、事故には注意してください。生きていれば何とかなります。元気があれば何でもできます。健康で元気に生きていきましょう。

４月からは学校現場を離れることになりま

すが、新たな職場で、僕も元気に頑張っていきたいと思います。今まで本当にありがとうございました。

岐阜高校の皆さんへ

数学科　大野　隼人

今年度三年次の担任をしていた、数学科の大野隼人です。

早いものでこの学校に5年間もの間勤めていました。

5年前の3月16日この学校に赴任することが決まりました。

僕は中津川市出身で、岐阜高校については詳しく分かっていませんでしたが、県下No.1の学校であることは知っていて、すごくドキドキしていたことを覚えています。

岐阜高校に来る前の生徒のイメージはみんな勉強大好きで、毎日何時間も勉強する「勉強の虫」でした。しかし赴任して間もなく、そうでないことに気づき、岐阜高校の生徒は、勉強が大好きな子がいれば、嫌いな子もいて、中には部活だけに一生懸命な子、部活も勉強も一生懸命すぎてパンクしそうな子、自分の考えを持って行動できる子、先生の言うことをよく聞いて吸収していく子、何食わぬ顔で遅刻ばかりする子など、数えだしたらきりがないほど、いろいろなタイプがいて、バラエティに富んだ学校だと思いました。

いろいろな分野で秀でた生徒ばかりですごく感心することばかりの一流生徒の集まりの岐阜高校ですが、十把一絡げの凡人の僕から見て、皆さんは人間関係、部活、勉強、進路に至るまで様々な悩みを抱えているなと思います。こういった悩みに関して一応人生の先輩としてのアドバイスをしておくと、今は大いに悩んでほしいと思います。悩まずに大人になった人は薄っぺらい人ばかりです。そしていろいろなことに挑戦してください。挑戦しないと悩みはやってきません。部活でも勉強でも何でもやると決めたらやりきるために悩んでください。

最後にこれまでお世話になりました方々へ、三年次の先生方、ご迷惑をおかけしっぱなしで、僕のミスで仕事を増やしてばかりでしたが、いつも助けてくださってありがとうございました。数学科の先生方、特に今の卒業生の学年を持った先生方と、その前の卒業生を一緒に持ってくださった先生方にも、ご迷惑をおかけしっぱなしで大変お世話になりました。生徒指導部の先生方、僕は生徒指導部でありながら、服装が乱れることもありましたが、一緒に楽しく仕事ができました。現三年次の卒業生、3年間本当にありがとう、みんなから元気もらいました。ソフトテニス部の卒業生、3年間みんなと部活ができて本当に楽しかった。ありがとう。最後に一・二年次生のソフトテニス部のみんなへ、無理を言ったり、なかなか効率よく部活ができなかったけど、一緒に部活をしてくれてありがとう。この学校生活で部活だけ最後まで見ることができなかったこと、これだけが心残りです。みんななら最後までやり切れると信じています。頑張ってください。

一生懸命

保健体育科　山北　俊輔

2年間大変お世話になりました。

研修を実施していただいた際は、資料作成を含めまして本当に感謝申し上げます。

岐阜高校で学ばせていただきました多くの力をこれからの自身に活かすことができるように、一生懸命勤めさせていただきます。

学ぶことの楽しさ

英語科　大野　麻未

4月は、新しい出会いがあり、また、新しいことを始めたい、そんな季節です。昨年、これまでにやったことがないことをやってみたいと思い、手話を学びはじめました。私が通った手話教室では、初心者ばかりでしたが、一切音声や文字を使わずに体当たりで学んでいくスタイルでした。言いたいことがあっても伝えられない、そんなもどかしい時間が続

きました。しかし、言語とはすばらしいもので、3 か月くらいすると、単語も増え、8 か月経った今は短い文で会話ができるようになりました。本来、学ぶことは楽しいものであると思い出させてくれる経験となりました。少し分かるようになると欲が出て、さらに上達したいと思い、家で動画を見たりして学ぼうともしました。しかし、なかなか自分一人での学習は効果が上がりませんでした。一方で、対面で学ぶ教室では、回を重ねるごとに力がついていく実感を得ました。言語とは対する人がいて身についていくものであるとの認識を新たにしました。これは英語にも言えることだと思います。皆さんには、ぜひ、英語を学ぶその先には人との交流があることを意識してほしいと思います。学ぶことは楽しい、そんな気持ちを大切に残りの高校生活を楽しんでください。最後になりましたが、毎日楽しい時間を共有してくれた生徒の皆さん、そして支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。

一番の財産

情報科　末岡　良明

こんにちは、末岡です。

新任の時から退職するまで 38 年間､再任用になり岐阜高校にお世話になり 5 年間の計 43 年勤め、少しお金も貯まりましたが、私の人生において一番の財産になったのは君たちを教えることができたことです。

本当にお世話になりました、とても感謝しています。

うちの犬の動画を見ていただき、お別れとさせていただきます。

Dear Students,

ALT　Vincent King

As this school year comes to a close, I reflect on the incredible journey we shared with both nostalgia and gratitude. I wish to communicate to each of you my pride in the progress you showed, and the potential within each of you to achieve your goals. Remember my most important lesson, English is not just a subject; it's your gateway to a world of possibilities. Embrace it, connect with others globally, and let it amplify your dreams. Pursue your passions relentlessly; they are the compass guiding you to an adventurous future. As you journey into tomorrow, savor your successes, and remember that challenges are not barriers but stepping stones—embrace, learn, and grow. Keep dreaming, exploring, and re-imagining what is possible for your life. There is a big world out there, I hope you can see it all!

◆■3 月 24 日（金）

■卒業生と語る会Ⅱ

今春大学に合格した三年次生から下級生に向け、高校生活の送り方や勉強方法、大学受験の状況等を語って貰いました。今後の学校生活を充実させ、進路意識を高揚させる貴重な機会となりました。

□概要

志望校合格を勝ち取った 13 名の卒業生から，この 3 月までの高校生活の様子や実際の受験の様子を順に話していただきました。

話をしてくれた卒業生は，東京大学に進学する 4 名（理科Ⅰ類 2 名、文科Ⅰ類 1 名、文科Ⅱ類 1 名)、京都大学に進学する 4 名（理学部 1 名、工学部 1 名、総合人間学部 1 名、経済学部 1 名)、医学部医学科に進学する 5 名でした。

話の内容は①志望校決定のきっかけ，②勉強と部活動の両立，③学習方法，③モチベーションの保ち方，④共通テスト・個別学力試験の実際の様子，⑤学習・部活動以外で力を入れたこと等、多岐にわたりました。最後に設けられた質疑応答では、下級生から出される質問に、時間ぎりぎりまで丁寧に対応してくれました。

下級生にとっては、受験を終えたばかりの先輩から具体的な話を聞くことで、今後の高

校生活のモチベーションアップにつながりました。

□生徒の感想より

・テストとの向き合い方について「自分の実力を向上させる」ということを目的に受けることが大切という考え方に大いに共感した。また、うまくいかない時も「どうせ受かる」という強い気持ちを持って勉強を続けることも大切だと分かった。

（東京大学志望　一年次生）

・文武両道はできる。部活・勉強の切り替えの大切さを痛感した。勉強については、基礎基本を大切にしつつ、常に物事の本質を考えながら勉強するのが良いと分かった。僕も、闇雲に勉強するのではなく、やる意味や目標を考えて勉強していきたい。

（京都大学志望　二年次生）

・どの先輩方も明確な志望理由を持っていた。私も、自分がどんな医者になりたいか良く考えて進路を決めていきたい。また、志望校を決定する際には「アドミッションポリシー」や「入試形式」も参考にすると良いと分かった。

（医学部医学科志望　一年次生）

・金曜講座や科学の甲子園などの活動にも積極的に参加し、自分の視野を広げたい。また、面接・小論文試験に備え、新聞等に目を通して社会情勢を知るようにしたい。先輩の人柄にも惹かれた。

（医学部医学科志望　二年次生）

～～グローバルリーダー養成事業～～

◆■11 月 29 日（火）

職業・学問体験プログラム（社会国際系）

〔講師〕
村尾　信尚　氏
（関西学院大学　教授）

講演「若き後輩たちへ」
〔日程〕
15:30～16:30　講演・質疑応答
〔参加者〕
一～三年次生　希望者 48 名

職業・学問体験プログラムの一環で、関西学院大学教授の村尾信尚氏をお招きし、関西学院大学「村尾塾」を開催しました。演題は「若き後輩たちへ」です。

講演では、大蔵省（現財務省）官僚としてキャリアを積まれ「NEWS ZERO」（日本テレビ系）のメインキャスターを務められた経歴など、幅広い経験を背景に、人生を豊かにするためのヒントとなる言葉をいただきました。また、気候変動問題や拡大する財政赤字の問題といった、若い世代が大きな負担を強いられる社会問題について、ディスカッション形式で意見を出し合い、日本の社会を持続可能で良いものにするための方策を、共に模索しました。

「明日は何が起こるか分からないから面白い」「自分の心の声を信じよう」といった村尾氏の前向きな言葉と情熱的な姿勢に、生徒は大きく心を揺さぶられた様子で、大変有意義な時間となりました。

□生徒の感想より

・「持続可能な日本、世界をつくるにはどうしたら良いだろう？」という疑問について考えてみた。膨大なエネルギー消費に伴う資源の枯渇や気候変動といった問題、膨れ上がる財政赤字に代表される財政問題など、簡単には解決できない問題について、ご自身の多様な経験に基づく分かりやすい解説をしていただき、とても勉強になった。自分も社会に前向きに関われるように日々の勉強を大切にしたい。

・「明日のことはどうせ分からないなら、楽しいことを考えよう」という言葉は、今の私に深く刺さった。先行きが不透明だとどうしても不安になりがちだけど、常にポジテ

ィブな気持ちを持って、失敗を恐れずいろんなことにチャレンジしたいと思った。

◆■12 月 14 日（水）・22 日（木）

■最先端科学体験プログラム

〔講師〕
岩本 吉則 氏
丹羽 悦子 氏
（岐阜かかみがはら航空宇宙博物館）
講演「岐阜県の航空宇宙産業」
〔日程〕
14 日（水）
15:30～16:10　講演
16:10～17:00　プログラミングについて
22 日（木）
13:30～16:00　プログラミング実習
競技会
〔参加者〕
一・二年次生　希望者 34 名

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館の岩本吉則氏と丹羽悦子氏をお招きして､「岐阜県の航空宇宙産業」についての講演とプログラミングの実習を行いました。

14 日は、前半に岐阜県で発展した航空産業について、各務原の歴史を振り返りながら説明していただきました。また航空産業の現状や未来への取り組み、世界と日本の宇宙産業についてもお話いただきました。後半ではプログラミングがどのようなものか説明していただき、プログラミングロボット「ozobot」を利用したプログラミングを体験しました。

22 日はチームに分かれて「ozobot」を使ったプログラミング実習を行いました。チームで協力して「配達」を題材とした課題をクリアするプログラムを組み、課題となる地図上でロボットを走らせました。競技会では、プログラムに各チームの特徴が出ていて、大変盛り上がりました。

□生徒の感想より

14 日（水）

・各務原に航空宇宙産業が発達した理由が、各務原は火山灰が堆積した大地であり、農業には不向きで、陸軍の演習場として利用され始めたからだと分かりました。スペースＸは 4 万個の人工衛星を打ち上げようとしていることを知り、とても驚きました。
・身の回りにある自動機械はすべてプログラミングされていることを知り、技術の発展に驚きました。
・プログラミング言語にはいろいろな種類があり、それぞれに特徴があるから、目的に合わせて使う必要があると分かった。また、宇宙には修理に行けないため、完璧なプログラミングをしておく必要がある。
・第一次、第二次世界大戦時に作ったゼロ戦などが、当時の世界でトップクラスの機体だったということにはとても驚きました。後半の「ozobot」の体験では、色の識別だけで行動ができるというのが凄いと思いました。ID チップを認識しなくてもロボットが動けるようになったことに感動しました。

22 日（木）

・グループでアイデアを出し合って、どの道を通れば一番点数が入るかを考えながら、楽しく活動できました。制限時間の 4 分にいかに近づけるかが課題で、最後は一時停止をうまく使って、何とか±15 秒以内にゴールするようにしました。他のグループの様子を見ると、ミッションをほぼすべて達成した上に、時間の調整をすることもなく 4 分ぐらいでゴールしていたグループもあって、もっと良いルートもあったのかなと思いました。今回の活動を通して、今までに話したことの無かった違うクラスや学年の人と話し合うことができて、この経験は今後の学校生活でも、社会に出てからも必要になってくるスキルだと思うので、この講座に参加して良かったと思いました。
・プログラミングを行うにあたって、1 チーム 6 人の編成で行われたが、今回のミッシ

ョンを達成するにあたって、何よりもチームの協力が必要不可欠で、それが僕たちのチームの大成功につながったと感じました。とても良い機会になりました。

・コースを設定して、自分たちのチームで 1 から作り上げるのは難しかったけど、プログラム通りに走行してくれたので良かったです。しかし、詰めの甘かった部分がいくつかあり、思い通りにいかない所があったので、悔しかったです。今後はどんな活動においても、詰めて詰めて、手抜かりのないようにしたいです。

・ルートを考えて、「理論上」はうまく作ることができた。しかし、競技では、考えていたルートとは違った形に認識されてしまい、結果は思うようにいかなかったけど、全員で協力して考えてできたので良かった。今回は時間が無くてできなかったけれど、時間があれば、失敗した原因を考えて、改善できれば良かったなと思う。直接的なプログラムではなくて、「指示を出す」ということを中心としたプログラムだったけど、少しでもミスがあるとうまくいかないことや、プログラムでやりたいことなどの基礎はしっかりと学べたので良かった。

◆■12 月 22 日（木）

■職業・学問体験プログラム（環境科学系）

岐阜県水産研究所
アクアトト・ぎふ　見学
〔参加者〕
一・二年次生　希望者 22 名

「奄美大島・屋久島自然科学探究研修」の事前研修として、一・二年次生 22 名が参加しました。

岐阜県水産研究所では、実際に所内の施設を見て回りながら説明を受けました。イタセンパラやウシモツゴなど、岐阜県を主な生息地とする希少生物が、生育段階によっていくつもの水槽に分けて飼育されていました。職員の方の「将来、自然の川に戻すために、敢えて人に慣れ過ぎないように飼育している」という言葉には、希少種の保護活動の難しさが表れていました。

アクアトト・ぎふでは、河川の環境汚染の実態について様々なデータを元に説明していただきました。その後水族館を見て回り、ヤマトサンショウウオやアカハライモリなど本校でも飼育されている水生生物を見学しました。

今回の見学を通して、奄美大島や屋久島などでも行われている固有種の保護活動が、日々の地道な努力の積み重ねの上に成立していることを学びました。

□生徒の感想より

・絶滅危惧種について以前よりも深く理解することができた。レッドリストに載っているからといって、すべてが絶滅危惧種ではないし、保護対象になっているわけでもないということを知った。今後も生物がテーマのプログラムに進んで参加したい。また、奄美・屋久島研修ではウミガメやアマミノクロウサギをはじめとする絶滅危惧種をテーマに研究したい。

・日本人は毎週クレジットカードぐらいの量のプラスチックを身体に入れているかもしれないと聞いて驚いた。将来どのような影響が起こるか分からないということだから、まずは、プラスチックを身体に蓄積させた魚にどのような症状が出るのかを調べてみようと思った。

◆■2 月 14 日（火）

■職業・学問体験プログラム（社会学系）

〔講師〕
三浦 菜都子 氏
（経済産業省 資源エネルギー庁）
講演「東京電力福島第一原子力発電所の廃炉や ALPS 処理水について考える」
〔日程〕

15：30～16：30　講演・質疑応答
〔参加者〕
一・二年次生　希望者 30 名

経済産業省から三浦菜都子氏にご来校いただき，世界に前例のない東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業、また長期にわたり予定されている ALPS（Advanced Liquid Processing System）処理水の処分について、ご講演いただきました。

講演では，まず東日本大震災が発災した当時の状況について説明がありました。参加した生徒は当時 4～5 才だったため，初めてこの災害による被害の大きさを知った生徒も多かったようです。東京電力福島第一原発の廃炉へ取り組みでは、継続的な注水作業により安定状態を維持していること、除染作業により一般的な服装で原子炉建屋に近づくことができるようになったこと等を知りました。一方、汚染水を浄化処理した ALPS(Advanced Liquid Processing System)処理水が大量に蓄積しており、これを大幅に薄めて海洋放出することになっているようですが、地元からは風評を懸念する声が大きいことを知りました。この声に対して政府は、第三者による評価、放出後のモニタリング、さらに、全国規模で情報発信する取り組み等を行っていることが紹介されました。

講演後は、ALPS 処理水の処分により危惧される風評を生じさせないための方策について、参加した生徒が交流し、様々な意見を出すことができました。プログラム終了後も多くの生徒が質問のために列をなす光景も見られ、今回の講演に対する興味関心の高さがうかがえました。

□生徒の感想より

・Google Earth で福島第一原発周辺を見ると、大量のタンクが置かれている。今までは深く考えてこなかったが、廃炉という復興の一歩を進めるには、ALPS 処理水の放出が必要であると感じた。風評被害が懸念されるが、県外にいる私たちが正しい情報を理解し、現地の人々に寄り添うことが大切だと思った。

・東日本大震災が起きた時はまだ小さく、記憶にほとんどありません。原発の廃炉作業についてもほとんど何も知りませんでしたが、今後は自分の言葉で語れるようにしたいと思います。処理水の海洋放出は日本だけでなく、世界の国々にかかわる問題なので、他の国々はどう思っているのか、また原発を所持する国はどのような対策をとっているのか、知りたいと思いました。

・今回の講義を通して、福島原発では防護服無しで作業できる領域がほとんどで、安全になってきていること、ALPS 処理水のタンクがいっぱいになっていること、ALPS 処理水を海洋放出する際のトリチウム濃度は WHO の飲料水基準よりも低く設定されていることが分かった。トリチウム濃度は希釈すれば基準値を下げられるが、絶対量が増加することによる問題がないのか気になった。

◆■3 月 13 日（月）～17 日（金）

■国際交流体験プログラム

奄美・屋久島自然科学探究研修
〔日程〕
令和 5 年 3 月 13 日（月）～17 日（金）
〔参加者〕
一・二年次生　希望者 23 名
＊新型コロナウイルスの対策で実施できなかった、マレーシアボルネオ研修に替えて、奄美大島と屋久島での自然体験研修を実施しました。

一・二年次生の希望者 23 名が、本校企画の研修で奄美大島と屋久島を訪れ、豊かな自然を体験し学ぶ研修を行いました。

1　奄美大島

□奄美パーク

奄美パーク園内にはシアターや数々の展示

品、資料が置かれている。展示品の中に奄美の地形形成の歴史について書かれた資料があり、その資料を見て生き物の多様性が地形の歴史と密接に関係しているということを初めて知った。また、奄美の森の中の動植物を再現した模型、森の中で生活する奄美の固有種たちの映像によって、本やインターネットなどの文章からでは見ることのできない奄美の姿を捉えることができた。

奄美大島の人々の生活を映した映像を見た。海に潜ってタコを家族のために獲ったり、奄美の森の植物の葉っぱの下に入って雨をしのいだりする島人の姿を見て、自然と共に生きていることが分かった。また、森の中だけでなく、森の井戸の中にも危険なハブがいて、人々はいつもハブに気を付けなければいけないことを知り、とても驚いた。想像していたより何倍も野生の生活と人間の世界の隔たりが少ないことに感動した。

□奄美海洋展示館

奄美大島には、海からの漂着物が 2 種類あります。1 つは、近年深刻な問題である海洋ゴミとなる物です。大浜海浜の漂着物のうち約 8 割が街からの物でした。もう 1 つは神からの贈り物「ユリムン」と呼ばれる物です。ヤシの実や流木、海藻、クジラなどの漂着物を豊穣･豊漁をもたらす海の彼方の神の国「ネリヤカナヤ」からの贈り物として感謝してきました。奄美や世界の海を守る様々な活動を知り、考えるきっかけとなりました。

また、館内最大の水槽は、奄美の海中の地形を模した構造になっていました。その水槽の中で、枝サンゴが見られる浅場の様子「イノー」や、沖の白波が立つ辺りから急に深くなる様子「シーバナ」を見つけたり、展示されていた色鮮やかな魚を実際に目にしたりして、本州付近の海洋との違いを肌で感じることができました。奄美の人々の生活とも強く結びついているこの美しい海の環境を、これからも守り続ける必要があると思いました。

□ナイトツアー

私たちは特別天然記念物のアマミノクロウサギを観察するためにナイトツアーを行った。そこではアマミノクロウサギだけでなくリュウキュウヤマシギやリュウキュウコノハズクなどといった多種多様な動物や、モダマなどの植物も見ることができた。ツアー中、山中には鳥や昆虫などの様々な鳴き声が響いており、声を頼りに探すこともあった。動物が動く音や草木の揺れも気にしながら探した。どのような動物がどこでよく見られるのか、どのような場所で巣を作るのかなど生物の生態について、土壌や気候など実際に触れながら学ぶことができた。また、自然だけでなくマングースを採るための筒や野猫を採るための籠を実際に見ることができ、どのような対策をしているのかより明確に知ることもできた。奄美大島ではマングースをほぼ完全に駆除することに成功していることから、沖縄本島などの他の場所でもここで見た対策を採れるのではないかと考えた。

□世界遺産センター

奄美の他地域と異なる大陸との関係上、多くの生物にとって目立った天敵が少なかったからだろうか、世界遺産センターでは、生存競争に強くない生物が多いと感じた。特に全速力がしょぼすぎるトカゲや数万年に数キロしか分布を拡大できないアオイの仲間が印象に残っている。クロウサギに至っては特に運動神経が優れているわけでもないのに広い場所を好むという変な警戒の仕方のせいで、夜普通に観察できるということにも驚いた。そのためにマングースのような強力な外来種が侵入した時の影響は大きい。

問題解決のため 20 年近くかけてマングースを処し続けているマングースバスターズの活動の変遷は面白かった。根絶に近づくほどそれを実感しづらくなる中動くのは精神的につらいだろう。しかし、乱獲や環境破壊とは別の方法で人間はある生物を地域から根絶で

きるという証明が完成して、将来的に各地の外来種の被害が減少すれば良いと思う。

□野生生物保護センター

奄美野生生物保護センターでは、奄美大島にしかいないアマミノクロウサギやルリカケスなどの生態と、マングースの駆除の仕方についての動画を見ました。動画の中では、自然の移り変わりと、それに伴う四季折々のそれぞれの動物たちの生活が色鮮やかに映されていました。また、マングースの生息数の変化や、罠による捕獲の仕方などの細かいことまで職員の方から丁寧な説明を受けました。他にも、蝶やカブトムシの標本や、様々な動物の剥製がありました。中でも、尾状突起を持つ異常個体のナガサキアゲハがいて、自然科学部昆虫班の前田君がはしゃいでいました。やっぱり野生動物保護センターというだけあって、入り口近くの庭には、オキナワキノボリトカゲがひょっこり顔を出していました。また、ツマグロヒョウモンが取れました。楽しかったです。

2　屋久島

□屋久島有用植物リサーチパーク

ボタニカルリサーチパークでは、人にとって有用な植物がどのように栽培されているのか、利用されているのかを学んだ。園内には大きな温室があり、ドラゴンフルーツやパパイヤなどの暖かい地域の植物が多く栽培されていて、実っている木も見られた。食用植物では、人が収穫しやすくなるように低い樹高で剪定していたり、収穫量・おいしさを増やすような工夫(摘芯など)がなされたりしていた。それらの工夫がなされていなかった場合との比較もあったため、視覚的にもその有効性を理解することができた。加工過程についても教えていただき、食用植物は多くの育てる時の手間や加工処理を経て市場や私たちの手元に届くのだと知った。食用でない植物でも、亜熱帯ならではのものが多く植えられていた。園内で栽培されたタンカンやパイナップル、アロエを試食した。園内の物見台からは、世界でも珍しい海に直接流れ込む滝である「トローキの滝」を見ることができた。

□屋久杉自然館

まず入って最初に一番に驚かされた。今まで自分の中で想像していた縄文杉の大きさを、実際のものははるかに上回っていたからだ。そして展示物を見ていく中で、大切なことに気づかされた。それは大器晩成という言葉の大切さである。縄文杉は屋久島という栄養分の少ない土地に住んでいるため他の地域の杉よりも成長するのが難しい。だからこそゆっくりと大きくなり最終的には他のものよりも大きくなる。そこから大器晩成の大切さに気づいた。

また、屋久杉と人の関わり方についても考えが変わった。自然館に来る前は、貴重な屋久杉を伐採し続けた昔の人たちは残念な人たちだと思っていたが、実際はそうではなかった。実は、屋久杉と人は共生していたのだ。もちろん江戸時代には平木を作るために多くの屋久杉が切られた。しかし、戦前までは樹齢 1000 年を超える屋久杉は伐採が禁止されていたり、伐採する時は神事を行い苗を植えるなどの活動をしたりしていたことから、一概に昔の人が悪いとは言えないことが分かった。

□縄文杉登山

縄文杉登山は朝 4 時から始まる。バスで登山口へ向かう道は真っ暗だ。縄文杉迄は約 11km、7 割がトロッコ道だ。中には手すりのない橋もあった。

山の麓では、シダ植物などの亜熱帯の植物が広がり、標高が上がるにつれヒメシャラやヤブツバキ、シャクナゲなどの照葉樹が、さらに上がると針葉樹の屋久杉が増えていった。屋久島は最高点で 2000m 弱のため、植物の垂直分布を見ることができる。花崗岩でできた島ながら多彩な植生が広がる理由は、本土のそれとは違う日本一の降水量にある。岩や倒

木などの乾燥地点にも高い湿度により苔が生え、保水力が増す。よって、樹木が生育することができる。そこに、多くの植物が着生するのだ。

道中、ヤクシマザルやヤクシカを見かけた。ガイドさんによると、サルが蜜を食べた後のヤブツバキの花をシカが食べるそうだ。生物のつながりがよく分かる。

10 時間かかった縄文杉登山。しかし私たちは、それ以上の濃密な時を刻めたであろう。

□屋久島環境文化村センター

環境文化村センターでは、屋久島の自然や文化に関する資料がたくさん展示されていました。マングローブのできる理由や垂直分布の詳細など、屋久島を地理的観点から紐解いていくことができ、より知識が深まり、自分が気になっていたことも知ることができました。ほかにも、漢方薬や屋久島の固有の植物についてなど興味深いコラムがたくさんありました。

個人的に一番興味深かったのは、野生動物についてです。サルに餌付けすると森林の植物を食べなくなって凶暴になり、生態系も壊れてしまうということを知りとても驚きました。また、近年問題になっているヤクシカによる農業被害も林道の整備や餌付けなどが原因でした。自分たちの何気ない行動が生態系を壊しかねないという事実を目の当たりにし、しっかり知識を蓄えて行動すべきだと改めて感じました。

□屋久島ウミガメ館元代表理事　大牟田一美さんの講演

ウミガメの減少は護岸工事による砂浜の減少や消波ブロックによる上陸・産卵行動の阻害が原因だと考えられていることが分かった。水害から身を守るために人間にとっては必要な物であっても、他の生物からすると生存を危険にさらす物になり得るということに気づかされた。私たち人間の利益だけを優先すると、近い将来、多くの生物たちが絶滅してしまうだろう。人間と野生動物たちの共存方法を考えさせられる講演だった。